「地・食べ」と障がい者千人雇用が連携
障がい者の作る野菜が相乗効果を発揮

市が進める地産地消の取り組み「地・食べ」と障がい者千人雇用の2つの政策が協力を強化。障がい者が働いて作る農産物を、市内で積極的に利用・販売していくことで、両政策が持続・活性化していくと期待されています。

協定書への調印を終え、瓶井廣洋理事長（写真左）から岡山自立支援センターが生産している青ネギ（桃太郎ねぎ）とミニトマト（きびトマト）が市長に贈呈された

◆連携協定を締結

市が地産地消に取り組む「そうじゃ『地・食べ』」事業で、障がい者が作る野菜を積極的に利用しようと、特定非営利活動法人岡山自立支援センターと市は5月21日、「そうじゃ『地・食べ』事業との連携協力に関する協定」を締結。調印式が総社市保健センターで行われ、岡山自立支援センターの瓶井廣洋理事長と市長が協定書に調印しました。

同センターは、就労継続支援A型事業所を岡山市内に3か所、久米南町に1か所設置・運営。農業生産法人有限会社岡山県農商から委託され、青ネギやミニトマト、サトイモなどの生産、加工を行っています。

これまで「地・食べ」事業で取り扱う野菜は、農家のものも含め、露地野菜が中心。収穫時期や天候の影響を受けやすく、売りたいのに売るものがない「野菜不足」が課題の一つでしたが、この協定により、安定して野菜を仕入れることができるようにもなります。

◆「地・食べ」生産者に認定

「地・食べ」事業ではこれまでも、障がい者の雇用1000人を目指す「障がい者千人雇用」事業と協力しようと、市内の障がい者就労支援事業所を「地・食べ」生産者と認定。障がい者が作る野菜を学校給食で使用したり、市内8店舗の直売所で販売したりしています。

◆利益の増加と雇用の安定

市長は、「地食べと障がい者千人雇用という二つの政策を一つの政策に合体。障がい者が精魂込めて作った野菜を、市民にどんどん売っていきたい」と、瓶井理事長は、「障がい者が生産した野菜を安定的に発注してもらい、雇用の安定にもつながれば」と期待を込めました。「地・食べ」事業と「障がい者千人雇用」が手を組み、さらなる利益の増加と雇用の安定という相乗効果を生み出していければと考えています。

問い合わせ　農林課農林係（☎㉒8271）

「地・食べ」生産者に認定されている総社市内の障がい者就労支援事業所

グリーンファーム

就労継続支援A型事業所
- ●所在地　総社市井尻野
- ●利用者数　24人
- ●生産農作物　トマト、タマネギ、ジャガイモ、マンゴーなど

一般社団法人 グリーンファーム
代表理事 坪井 直人さん

利用者の「意欲」を育てようと心掛けています。6月16日には市内に念願の野菜を販売する店をオープンしました。利用者、職員共に成長しながら、着実に前に進んでいきたいと思っています

トラクターで畑を耕す利用者

やさい畑クムレ

就労継続支援B型事業所
- ●所在地　総社市岡谷
- ●利用者数　12人
- ●生産農作物　オクラ、タマネギ、サトイモ、エンドウ、ナスなど

やさい畑クムレ 管理者 小林 章伸さん

開放的な自然のなかで生き生きと利用者は作業をしています。一人ひとりの特性に合う作業を考えながら、季節に応じ、無農薬、低農薬で作っています。新鮮で安全な野菜を届けたいと思っています

オクラの苗を植える準備作業をする利用者

岡山自立支援センター ももっ子みつ

就労継続支援A型事業所
- ●所在地　岡山市北区
- ●利用者数（6月1日現在）　23人
- ●生産農作物　青ネギ、ミニトマト、サトイモ、ブロッコリーなど

写真左から総社市出身の名木田晋作さんと角田直也さん。暑い日差しが照りつけるなかブロッコリーを収穫する

「仕事は楽しい。職場の仲間がたくさん増えてうれしい」と話す角田さん（写真手前）は、勤続10年のベテラン。名木田さん（写真後ろ）は、勤続3年目。「仕事は結構大変。買い物をするのが楽しみ」と話す

特定非営利活動法人
岡山自立支援センター
サービス管理責任者
宇都宮 真由美さん

利用者のみんなは、暑いときも、寒いときも不平不満を言わず、がんばっています。体調管理が心配ですが、そのがんばりに感謝し、ついていっています。いい農作物を作れるよう、作業方法などを職員と利用者で相談、改善しながらやっています